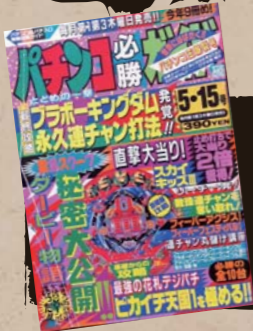


影は薄いが
掃除しないが
元祖デカドラ
店なら勝てた!?

実録!! 大崎一万発の波乱万丈銀玉人生

あの日あの時あの一品

パチンコ必勝ガイド編集部編



1993年5月15日号

第10話 フィーバーキング II [SANKYO]

衝撃の誌面デビューと熱狂の新装開店からわずか3ヶ月。今号での扱いはわずか2/3ページのみ。そうそう、この頃からですよ、台の寿命がなんと〜短くなってきたのは(少なくとも攻略誌的には)。

昨今のSANKYOには、何がやりたいんだろって迷走が目立ちますが、それもこれも本家本元「ドラム表示」の凋落に端を発している気がします。原点回帰か、脱皮の英断か！ さてどっち？

敗により明らかである。
表示部巨大化競争というのはアセグやドット表示の頃から新機種毎に展開されてきたのだが、ひとり「ドラム」の巨大化で独自路線を走っていたのがドラム表示の元祖・SANKYOである。アナログで単純な表現しかできないドラム表示が発展途上のカラー液晶機とまだ互角(以上の人気を誇っていた絶頂期に、ドヤッ!とばかりに送り出されたのがデカドラが自慢の「キング」である。
そのサイズはタテ13cm×ヨコ17cm……って、ちいちゃー! 役モノ等まで含めると、現行機の4分の1くらいに感じるコンパクトだが、93年当時に初めて実機を見た感激は今回の「仕事人」以上……と言っても大げさではなかったホントですよ。「パチスロのドラムをそのまま搭載!」ぐらいの勢いでキヤッチ考えたし。「見開き実寸で写真を使おう!」とか、編集部も盛り上がりつつ、ホールで打った「らしさ満点の重厚なBGMに涙し、大当たり確定時の「ピキーン」がまた心に刺さ

デカけりやいってものではないけれど、でも小さめよりは大きいのが喜ばしい……のはパチンコもそうだがパチンコのメイン液晶画面の話である。技術的にはとくに全面液晶機も可能となっているが、まるで人気が出なかったため現在は15インチ前後が適正サイズとして一般化している。といってもタテ20cm×ヨコ30cmと眼前がぶりつきには十分巨大な画面であるから、実際には特別図柄II大当たり判定デジタル、いわゆるセグではないのに「メイン」と呼ぶしかないパチンコのゲーム性(ほぼ)そのものである(すべてでないのは全面液晶機の失

記憶の中ではもっとデカい……と懐けるへんが昔の話だ

つてねえ。ああ、青春だったなあ……失礼。
拭き掃除でクセが変わる……この繊細さがアナログの味
そんな感じで、今見ると逆に驚く控えめ表示のキングだったが、でも当時の基準からしたら十分異質なサイズのドラムである。盤面(遊技領域)も、今より一回り小さかったから、17cm幅でも玉の流れに無理が出た。ワイプステージに誘導することで解決を図った……はずがそれが強烈すぎるクセの差を生む原因となってしまうたのは時代をしのばせる笑い話である。
ステージ横から飛び込んだ玉が、ふわりと絶妙なカーブを描いてへソ上に誘導されるのだが(確定の入賞コースはなかった)、ここで決まりが良すぎる台ができてしまった。千円で100個回った話もあった。編集部近くのT店で、60個の台を掴んだ編集部員が、「今日は行かない」と堂々打っていたこともあった。
玉のわずかな曲がり具合に個体差が出るため、ステージを拭き掃除

フィーバーキング II [SANKYO/1993年]

『クイン』の登場がもっと遅ければロングヒット機になったはず。ドラム機の演出は、キングぐらい「何もない」のが適正だと思うんだけど。



基本データ	
大当たり確率	254分の1
賞球	7&15
大当たり出玉	約2,300個
備考	どうでもいい話だが、僕はまだ本機のリーチ音と大当たり中音を歌える。

されたらクセが変わる。残っていたぞうきの糸くすがストライクに玉を誘導して、爆発的に回るようになったとか、拭き掃除をやらないうズボラな店でクセ良台を長く使うのが有効な立ち回りだった等、ならではアナログなエピソードを多く残している。メガヒットを記録した後継機「クイン」の影で不遇をかこっているが、僕にとってはキングの方が断然酒の肴になるマシンである。また本機には、若干低めの大当たり確率(254分の1)ゆえ数珠つなぎ連チャン疑惑が根強くさやかれた。同時期に出たデカドラ機『フェスティバル』が数珠機確定だったことで期待はかかったが、解析からは「ただの保留玉連チャン機」に落ち着いた。保留玉1〜3個目が大当たり確率16分の1に書き換えられることで、連チャン率は約18%。スベック的には……当時としては標準的だなあ。要のドラム演出も、基本的には「回って止まる」だけだし。ただ時々、スルツと戻ったり、無音で一周進んで当たったりと控えめなサブライズが効いていてこれが当時の技術的限界だったのかもかもしれないけれど、ギャンブル性とも長時間遊技ともバランス程良く、疲れずに打てた台だった。
さて、SANKYOの最新ドラム機「ルーセント」の打ち心地はいかに? うん、やりすぎてないことだけを祈ります。

こぼれネタ

センターページで特集されているのが豊丸のカラー液晶機『ピカイチ天国』。今じゃ信じられないけれど、豊丸が液晶開発の「トップ」を走っていた時代が確かにあったのである(笑)。ピカイチ天国も鮮やかな画面表示と美少女キャラで人気を博していたが、ウリのひとつだった「リーチ期待度表示機能」(運の強さメーター)が、リーチの瞬間の画面表示で大当たり判別可能なため、まるっきり無意味だった「らしい」エピソードも。

OSAKI
ICHIMANPATSU

大崎一万発 / おおきき いちまんぱつ
パチンコ情報誌『パチンコ必勝ガイド』(白夜書房)元編集長。現在はフリーランスとして多数のファン雑誌・情報誌に連載を持つ傍ら、テレビ・ラジオの専門チャンネルやホールイベントでも幅広く活躍中。その実績はただのパチンコ中書とか、『パチスタ★TV レバーオン』にもゲストで出演中!
Blog <http://love-pachi.com/>
Twitter @manpatsu